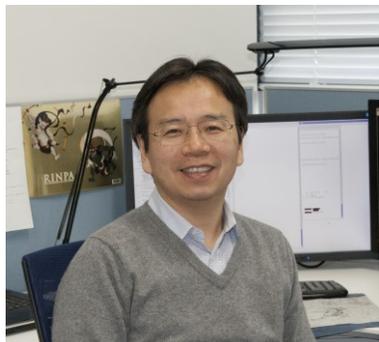


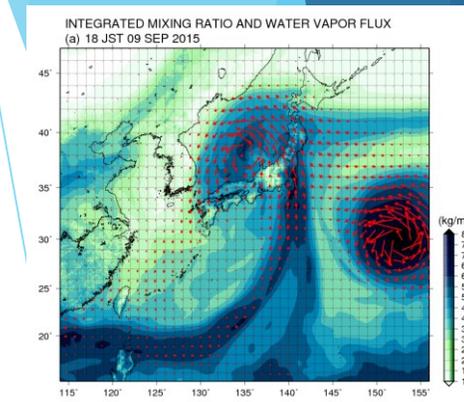
第23回 気象サイエンスカフェin名古屋Zoom

「豪雨をもたらす線状降水帯の実態と大気の河の航空機観測」



スピーカー 名古屋大学宇宙地球環境研究所教授・横浜国立大学
台風科学技術研究センター副センター長：坪木和久氏

日時 令和4年10月30日(日) 午後3時～午後4時30分
Zoom利用で開催



理学博士。専門は気象学。北海道大学理学部卒、同大学大学院理学研究科修了、日本学術振興会特別研究員（北海道大学低温科学研究所）、東京大学海洋研究所助手、名古屋大学大気水圏科学研究所助教授、名古屋大学地球水循環研究センター助教授、准教授、教授を経て現在に至る。台風や豪雨を主に研究。数値シミュレーションと共に、航空機を用いた台風の観測を行っている。著書に「激甚気象はなぜ起こる」、新潮選書。

近年、線状降水帯に伴う豪雨災害が増えています。地球温暖化とともに大気中の水蒸気が増えると、線状降水帯などのより激しい積乱雲の群が発生しやすくなります。日本は湿潤な気候帯に位置しているので、豪雨が激甚化することは、今後ますます防災上の大きな問題となります。線状降水帯については未解明な点が多く、その雨量や強度の予報には大きな誤差があります。近年、線状降水帯などの豪雨をもたらす原因として、「大気の河」とよばれる大規模な水蒸気の流れが大気中にあることがわかってきました。そこで私たちは航空機観測により、大気の河の観測に挑んでいます。ここでは豪雨をもたらす線状降水帯と大気の河の実体と、それらについての航空機観測などの最新の知見をお話しします。

定員 80名(先着順)

参加費 無料

申込方法 メールにて、s_cafe_nagoya@yahoo.co.jp 日本気象報士会東海支部 亀山あて。件名は「気象サイエンスカフェ参加希望」としてください。

本文に住所（都道府県のみ）、氏名、所属（会社員、大学生、公務員、気象予報士会会員等）メールアドレス記載の上、個人ごとでお申し込みください。

Zoomでの参加方法は、申込受付後にご案内します。

申込時に記載された個人情報には本会主催行事の開催案内以外には使用しません。

主催（公社）日本気象学会中部支部、（一社）日本気象予報士会東海支部